



Informatica® Cloud Application Integration
April 2021

Cloud アプリケーション統合
コネクタ

Informatica Cloud Application Integration Cloud アプリケーション統合用コネクタ
April 2021

© 著作権 Informatica LLC 1993, 2021

発行日: 2021-08-10

目次

序文.....	4
第 1 章: クラウドアプリケーション統合用コネクタ.....	5
アプリケーション統合用コネクタ.....	5
コネクタのタイプ.....	5
Informatica Cloud コネクタ.....	6
リスナベースのコネクタ.....	7
リスナベースのコネクタの高可用性とロードバランシング.....	7

序文

Cloud Application Integration 用コネクタガイドでは、アプリケーション統合で利用できるさまざまなコネクタについて説明します。アプリケーション統合では、Web サービスやアプリケーションとの統合用に設定した接続およびプロセスと連携するように設計された、複数のコネクタが提供されます。サポートされるすべてのコネクタで、Informatica Intelligent Cloud ServicesSM外のサービスやデータソースとの連携が可能です。

第 1 章

クラウドアプリケーション統合用コネクタ

この章では、以下の項目について説明します。

- [アプリケーション統合用コネクタ, 5 ページ](#)
- [Informatica Cloud コネクタ, 6 ページ](#)
- [リスナベースのコネクタ, 7 ページ](#)

アプリケーション統合用コネクタ

アプリケーションの統合では、Web サービスやアプリケーションとの統合用に設定した接続およびプロセスと連携するように設計された、複数のコネクタが提供されます。サポートされるすべてのコネクタで、Informatica Intelligent Cloud ServicesSM外のサービスやデータソースとの連携が可能です。また、特定の操作を API、Web サービス、またはデータベースに対して実行することもできます。

コネクタのタイプ

次の種類のコネクタを使用できます。

アプリケーション統合コネクタ

各アプリケーション用にクラウドとの間でやり取りされるデータにアクセスするために設計された、アプリケーションの統合コネクタ。JDBC、Workday、SAP、OData、および Salesforce 用のコネクタはこのカテゴリに該当します。

メッセージベースのコネクタ

ActiveMQ や JMS などのキューベースのメッセージブローカーを設定できるようにするために設計されたメッセージベースのコネクタ。AMQP コネクタや Amazon SQS コネクタはこのカテゴリに該当します。

リスナベースのコネクタ

リスナベースのコネクタは、次のタスクを実行するように設計されています。

- ファイルシステムやその他のタイプのストレージ上にあるファイルやオブジェクト用のファイルベースのシステムを監視して、ファイルを取得し、そのコンテンツを処理したり、ファイルメタデータの移動または読み取りなどのファイル操作を実行したりできるようにするため。例えば、カンマ区切りファイルを解析し、そのファイルのコンテンツを XML としてプロセスオブジェクト内で利用できるようにし、処理後のファイルを別のディレクトリにアーカイブできます。プロセスオブジェクトでは、行数やタイムスタンプなどの、ファイルやオブジェクトのメタデータも利用できます。ファイルコネクタ、FTP コネクタ、および Amazon S3 コネクタは、このカテゴリに該当します。
- イベントサービスにアクセスして、プロセスオブジェクトから XML を読み取ってカンマ区切りファイルを作成したり、プロセスストリームからバイナリファイルを読み取ってそのバイナリコンテンツをターゲットファイルシステムに書き込むなどのタスクを実行するため。

サービスコネクタ

サービスコネクタは、プロセスで使用する特定のサービスに関連付けられたパラメータやアクションを指定するために、Process Designer を使用して設計します。

イベントソースおよびイベントターゲット

リスナベースのコネクタを使用すると、次のものを定義することもできます。

- イベントソース（コンシューマまたはプロセスをトリガする開始イベントとして機能する）
- イベントターゲット（外部システムの起動に使用できるイベントサービスとして機能する）

Informatica Cloud コネクタ

Informatica では、次のコネクタがアプリケーションの統合と連携することを認定しています。このリストに含まれていないコネクタの認定が必要な場合は、営業担当者にお問い合わせください。

JDBC

JDBC（Java Database Connectivity）は、Java プログラムが SQL 文を実行し、任意の SQL 対応データベースと連携することを可能にする Java API です。JDBC を使用すると、さまざまなプラットフォームで実行し、さまざまな DBMS システムと連携できる、1 つのデータベースアプリケーションを作成することができます。データベースでサポートされているデータベースドライバの最新バージョンを使用していることを確認します。

注: Informatica では、JDBC と JDBC_IC の 2 つの JDBC コネクタを提供しています。アプリケーションの統合では、JDBC_IC のみを使用します。

OData

OData コネクタは、OData に準拠した SharePoint や Team Foundation Server などのシステムを、その他のオンプレミスアプリケーションやクラウドアプリケーションと統合するために役立ちます。これは、データ API の作成や使用向けに標準化されたプロトコルです。OData は、HTTP などの主要なプロトコルや、REST などの広く受け入れられている技法の上に構築されます。

Salesforce

Salesforce コネクタを使用すると、Salesforce との間で情報を読み書きするガイドとプロセスを作成できます。Salesforce からの送信メッセージは、情報のバックグラウンド処理を実行するプロセスや、情報を Salesforce に書き込んで戻すプロセスをトリガできます。

SAP

SAP BAPI コネクタを使用すると、SAP BAPI と統合して、SAP 内のデータの読み取り、作成、変更、または削除を実行できます。SAP BAPI コネクタは、Informatica Cloud Application Integration で、サービス呼び出しとして使用できます。例えば、SAP 内の販売オーダーデータを更新するには、SAP BAPI 接続を設定して BAPI_SALESORDER_CHANGE 関数にアクセスできます。

Workday

Workday コネクタを使用すると、Workday アプリケーションとデータを統合できます。例えば、ある従業員とその依存関係に関する情報を取得したり、新規採用者のオンボーディングを行ったりできます。

Cloud アプリケーション統合コネクタ

のアプリケーションの統合は、いくつかのコネクタを提供します。詳しくは、特定のコネクタのドキュメントを参照してください（Amazon S3 コネクタやファイルコネクタなど）。

リスナベースのコネクタ

のアプリケーションの統合は、メッセージやファイルのイベントベースの処理のために使用できる、いくつかのタイプのリスナベースのコネクタをサポートします。Process Designer には、多様なコネクタの属性が用意されており、リスナベースの接続を設定する際にさまざまなファイルリスナプロパティを使用できます。

AMQP コネクタ（メッセージベース）やファイルコネクタ（ファイル/ストレージベース）などのこれらのコネクタは、メッセージブローカーまたはファイルモニタとして機能し、データオブジェクト、サービス呼び出し、およびイベントを Process Designer で使用できるようにするために再利用できます。

リスナベースのコネクタの高可用性とロードバランシング

プロセスサーバーが Secure Agent クラスタ構成を使用する場合、次のリスナベースのコネクタで高可用性とロードバランシングがサポートされます。

- Amazon S3
- Amazon SQS
- AMQP
- ファイル
- FTP
- Kafka
- RabbitMQ
- Salesforce

プロセスサーバーが Secure Agent クラスタ構成を使用する場合、常に 1 つのリスナのみがアクティブになります。クラスタ内のすべてのプロセスサーバーはマスタエージェントの PostgreSQL データベースを共有します。アセットを Secure Agent クラスタにデプロイすると、すべてのプロセスサーバーがプロセス実行アクティビティに関する情報を受信します。マスタ Secure Agent は情報を受信し、他のすべての Secure Agent に送信します。プロセス実行中に Secure Agent で障害が発生すると、プロセスはフェイルオーバーされ、クラスタ内の別の Secure Agent で継続して実行されます。

フェイルオーバーの状況によっては、データの重複が発生することがあります。例えば、エージェントが停止して別のエージェントに引き継がれるまでの間に短い時間差が生じることがあります。この時間差の間に転送中のデータがあると、プロセスの実行を引き継ぐエージェントでそのデータが重複して複製されることがあります。

複数のリスナベースの接続を使用する場合、プロセスサーバーはロードバランシングを確実に達成するために、Secure Agent グループ内のさまざまな Secure Agent マシン間でルートを分散させます。

プロセスサーバーで高可用性とロードバランシングを設定する方法については、「Administrator」のヘルプを参照してください。